

令和5年度「世界史A」シラバス

世界史A	単位	2	学年	3年	使 用 教 科 書	「高等学校改訂版世界史A」（第一学習社）
------	----	---	----	----	-----------------------	----------------------

学習の到達目標	近現代史を中心とする世界の歴史を、我が国の歴史と関連付けながら理解させ、人類の課題を多角的に考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。
---------	--

評価の観点			
a. 関心・意欲・態度	b. 思考・判断	c. 資料活用の技能・表現	d. 知識・理解
近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。	近現代史を中心とする世界の歴史から課題を見だし、世界的視野に立つて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	近現代史を中心とする世界の歴史についての諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現する。	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。

学期	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	d	評価方法	
1	4	序章 世界史への旅立ち	・人類史の大まかな枠組みを把握し、世界史学習への意欲を高めるとともに、初期の文明についての知識を身に付ける。	○	○		○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査	
		【世界の一体化と日本】 第1章 ユーラシアの諸文明 1節 東アジア	・東アジア世界の特質に対する関心高め、農耕社会と遊牧社会の特質と、中国の皇帝政治について理解する。 ・東アジアの国際関係にみられた冊封体制について理解し、その知識を身に付ける。 ・漢字・儒教・仏教・道教などに関する様々な資料を活用して東アジア世界の特質を理解するとともに、日本の文化とも関連付けて多角的に考察する。	○			○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査	
		2節 南アジア	・南アジア世界の多様な地域性について関心高め、南アジアの民族・言語・宗教に関する様々な資料を活用して、その歴史的背景を理解する。 ・各宗教が南アジア世界に及ぼした影響について、具体的な事例をもとにして考察する。 ・東南アジアにおける多様な社会・文化の形成について把握し、基本的知識を身に付ける。	○		○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査	
	5	3節 東南アジア	・東南アジアにおける多様な社会・文化の形成について把握し、基本的知識を身に付ける。			○	○		
		4節 西アジア	・西アジアで古くから文明が栄えた背景に関心高め、オリエント・イラン文明について、日本への影響を考察しながら、追究する。 ・ユダヤ教・キリスト教・イスラームに関する様々な資料を収集し、3つの宗教の相違点を理解する。 ・イスラーム世界拡大の背景について、多角的に考察し、また、イスラーム世界が東西の文明や経済の交流に果たした役割について把握する。	○	○		○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査	
		5節 ヨーロッパ世界	・ヨーロッパの南北、東西の地域性について関心高め、現在のヨーロッパを鑑みながら、その特質を理解する。 ・ギリシア・ローマ文明がヨーロッパ世界の形成に与えた影響について把握し、その知識を身に付ける。 ・キリスト教がヨーロッパ文明の基調となり今日まで受け継がれていることを、思想・文学・日常の慣行や儀礼などの具体的事例をもとに考察する。 ・封建社会の成立から王権の伸長までの西ヨーロッパ世界の変動を把握し、その知識を身に付ける。	○			○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査	
6	6節 ユーラシアの海の交流	・ムスリム商人、中国商人の活躍についての資料を活用し、海のネットワークの概要と交流の具体的な様相について意欲的に追究する。 ・海のネットワークの成長と近現代の「海の時代」との関係について把握し、基本的知識を身に付ける。	○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査		

学期	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価				評価方法
				a	b	c	d	
1	6	7節 ユーラシアの陸の交流	<ul style="list-style-type: none"> ・騎馬遊牧民とオアシス都市の活動に関する資料を活用して、遊牧社会の膨張によるユーラシアの一体化について考察し、意欲的に追究する。 ・内陸アジアの遊牧社会・オアシス農耕社会の特色と両者の相互依存関係、モンゴルによるユーラシアの一体化について理解し、その知識を身に付ける。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
		8節 地中海海域とユーラシア	<ul style="list-style-type: none"> ・イタリア商人による東方貿易とイスラーム文明のヨーロッパへの流入に関する資料を活用し、地中海海域の交流の様相について考察し、意欲的に追究する。 ・諸文明や物資の流入による経済成長と文化変容が西ヨーロッパに与えた影響について把握し、基本的知識を身に付ける。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
		9節 東アジア海域とユーラシア	<ul style="list-style-type: none"> ・元の東西交流と黄海や東シナ海における交易の活性化、琉球王国の交易活動に関する資料を活用して、東アジア海域の交流の様相について考察し、意欲的に追究する。 ・モンゴル帝国の興亡や明の政策と密接に関連しながら成長をとげた東アジア海域の交流圏について把握し、基本的知識を身に付ける。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
		第2章 結びつく世界と近世の日本 1節 大航海時代の世界	<ul style="list-style-type: none"> ・ルネサンスと宗教改革の特質を把握し、その歴史的背景について考察する。 ・大航海時代のヨーロッパとアメリカ大陸との接触・交流に関する資料を活用し、アメリカ大陸の先住民社会の変貌について理解する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
1	7	2節 アジア諸帝国の政治と社会	<ul style="list-style-type: none"> ・16世紀から18世紀にかけてのアジア諸地域世界の社会や文化の特質について考察する。 ・アジア諸帝国の政治と社会に関する資料を活用し、16～18世紀のアジア諸帝国の特質、ヨーロッパとの関係について意欲的に追究する。 ・明・清帝国と朝鮮・日本との関係、ムガル帝国・サファヴィー朝・オスマン帝国の動向に関する資料を活用し、基本的知識を身に付ける。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
		3節 ヨーロッパ主権国家体制の成立	<ul style="list-style-type: none"> ・16世紀から18世紀にかけてのヨーロッパ諸国の動向と国際関係の推移を把握し、その知識を身に付ける。 ・世界の一体化とそれに伴うアフリカ・アメリカの変容について関心を高め、多角的に考察する。 ・主権国家体制の成立と大西洋貿易の展開によるヨーロッパ社会の変容について理解し、その知識を身に付ける。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
2	9	第3章 ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成 1節 アメリカとフランスの革命	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ独立革命・フランス革命・ラテンアメリカ諸国の独立の背景と影響について関心を高め、意欲的に追究する。 ・アメリカ独立革命、フランス革命、ラテンアメリカ諸国の独立が果たした歴史的意義について考察し、関連する資料を活用して基本的知識を身に付ける。 ・アメリカ独立革命、フランス革命、ラテンアメリカ諸国の独立が相互に関連をもちながらおこったことを理解する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
		2節 産業革命	<ul style="list-style-type: none"> ・産業革命の背景とその影響について関心を高め、意欲的に追究する。 ・産業革命が果たした歴史的意義について、関連する資料を活用して考察し、基本的知識を身に付ける。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
	10	3節 19世紀の欧米世界	<ul style="list-style-type: none"> ・ウィーン体制下での自由主義・ナショナリズムの運動について意欲的に追究し、その歴史的意義を考察する。 ・ナショナリズムの高まりがドイツ、イタリアでの国民国家形成の原動力となったことを理解し、国民国家形成までの過程を把握する。 ・ロシアの対外進出の背景を理解し、その動きがもたらした影響について多角的に考察する。 ・西部開拓と先住民・黒人への抑圧、移民の流入についての資料を活用し、アメリカの国民形成の独自性について理解する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査

学期	月	学習項目	学習内容(ねらい) および評価の観点	a	b	c	d	評価方法	
2	11	第4章 アジア諸国とヨーロッパの進出	<ul style="list-style-type: none"> ヨーロッパを中心とするアジアでの国際分業体制の形成について、近代世界システム論の視点から追究し、19世紀の世界の一体化とその特質を考察する。 ヨーロッパの進出期におけるアジア諸国の状況、植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折、伝統文化の変容、その中で日本の対応に関する資料を活用し、アジア諸国の内部で進行していた変化とヨーロッパの進出によって引き起こされた変貌について考察する。 日本の明治維新とその後の近代化の動きがアジア諸国に与えた影響について考察し、その知識を身に付ける。 	○	○			<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 定期考査 	
		第3編 地球社会と日本 1章 帝国主義の時代	<ul style="list-style-type: none"> 帝国主義列強の世界政策によって世界がどのように変容したか、意欲的に追究する。 帝国主義列強の植民地支配について、民族・国境など現在まで残る問題と関連付けて考察し、理解する。 帝国主義列強の植民地支配、それに対する反帝国主義植民地運動の高まりや近代化の動きについての資料を活用し、帝国主義列強の侵略にさらされたアジア・アフリカの変貌と諸民族の民族的覚醒について考察する。 	○		○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 定期考査 	
	12	第2章 急変する人類社会	<ul style="list-style-type: none"> 19世紀末から20世紀初頭にかけての社会の急激な変化についての資料を活用し、現代の社会と関連付けながら考察する。 19世紀末から20世紀初頭にかけての欧米諸国や日本などに見られた社会の急激な変化を意欲的に追究し、現代社会の原型が成立したことを理解する。 		○	○		<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 定期考査 	
		第3章 世界戦争と平和 ・第1次世界大戦 ・ロシア革命と大戦の終結 ・ヴェルサイユ・ワシントン体制	<ul style="list-style-type: none"> 第一次世界大戦の原因について、これまでに学習したことと関連付けて、意欲的に追究する。 第一次世界大戦についての資料を活用し、第一次世界大戦の性格と第一次世界大戦がもたらした世界の変化について考察し、理解する。 ロシア革命とソ連の成立について、政治的・経済的・思想的影響について考察する。 国際連盟やヴェルサイユ・ワシントン体制の理念と現実、アジア諸国の民族運動について理解し、国際社会の枠組みの変化について把握する。 第一次世界大戦後の世界の変化について、第二次世界大戦へとつながった問題点を含め、多角的に考察する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 定期考査 	
	3	1	・世界恐慌 ・ファシズムの台頭と第二次世界大戦	<ul style="list-style-type: none"> 世界恐慌からファシズムの台頭、第二次世界大戦に至るまでの過程を互いに関連付けながら、意欲的に追究する。 世界恐慌の原因と影響、各国の恐慌対策、ファシズム台頭の背景と経過についての資料を活用し、第二次世界大戦の原因を考察する。 第二次世界大戦の性格と、その過程で生じた米ソ冷戦の芽や原爆使用の意味について理解し、その知識を身に付ける。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 定期考査
			第4章 三つの世界と日本の動向	<ul style="list-style-type: none"> 米ソ両陣営の対立、アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立に対する関心を高め、1970年頃までの世界の政治・経済の動向について考察する。 米ソ両陣営の対立、アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立についての資料を活用し、1970年頃までの世界の政治・経済の動向について理解する。 アジア・アフリカの民族独立運動、第三勢力の形勢とその国際的役割、アジア・アフリカ諸国が抱える諸問題について理解し、その知識を身に付ける。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 定期考査
第5章 地球社会への歩みと課題		<ul style="list-style-type: none"> 1960年代後半から現在までの地球社会形成に向けての諸地域世界の情勢に関する資料を活用し、その知識を身に付ける。 東欧諸国の民主化とソ連の社会主義体制の崩壊について、その歴史的意味を多角的に考察する。 新聞やインターネットなどから国際社会の新しい動きや問題点についての情報を収集し、有用な情報を選択して活用する。 現代社会の問題点を把握し、その解決のために日本が果たすべき役割について考察する。 		○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 定期考査 		

年	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
3	3		<ul style="list-style-type: none"> デジタル=デバイド, 貧困, 人権侵害, 環境問題など地球共通の課題について, 主体的に追究し, 認識を深める。 科学技術の発展について, 利点と課題の両側面から追究し, 認識を深める。 デジタル=デバイド, 貧困, 人権侵害, 科学技術の発展と生命倫理, 環境問題などに関する資料を収集・選択・活用するとともに, 追究し考察した過程や結果をレポートにまとめたり, 発表したりする。 		○		○	<ul style="list-style-type: none"> 課題レポート 課題発表

(注)第2章は, 1～4節の中から二つ程度を選択する。(文部科学省「高等学校学習指導要領 世界史A」の内容の取扱いによる)